

日本語とトルコ語の諺の比較対照研究

諺の中で使用されている動物素材を中心に

バルシュ・カフラマン

．はじめに

広島大学で日本語・日本文化研修生として勉強するにあたって、アジアの東端と西端に遠く離れて位置している日本とトルコの諺の素材には違いや類似の意味があることに興味を持った。そこで、このような表現素材の相違点や類似点について比較対照研究をすることにした。

諺を研究してみると、その諺が代々伝わってきた民族の慣習や風俗、生活様式など、その民族の文化について色々な事情が分かる。しかし、今回の研究では両国の諺を全体的に調べ、諺の面から見た両民族の慣習や文化的な事情について全体的に述べるのではなく、両国で「動物」が表現素材として使用されている諺に主眼を置き、数量的な観点から比較対照研究を試みる。

次に構成、分析資料、分析方法について簡単に述べておく。

．構成

両国の諺の中で表現素材として使用されている動物の単語を抽出し、哺乳類^{ほにゅうるい}や鳥類^{ちょうるい}、魚類^{ぎょるい}、爬虫類^{はちゅうるい}そして、昆虫類^{こんちゅうるい}とその他の虫類^{むしるい}として五つの項目（グループ）に分類し、諺の中で表現素材として使用されている「動物」の数を中心に比較する。その比較を踏まえて、素材の中で両国の風土や両民族の生活様式と動物に対する意識の特徴を述べる。

．分析資料

数量的な分析の資料としては、中川昇が監修した「諺辞典」（960例）とソニーD-D-IC7000にソフトとして入っている学究出版社の「ことわざ早引き辞典」（1300例）そして、OMER ASIM AKSOY（オメル・アスム・アクソイ）の「ATASOZLERIVE DEYIMLER SOZLUGU」「諺・成句辞典」2667例を資料母体とした。

．分析方法

上記の資料母体から動物を現す素材（単語）を抽出して、哺乳類や鳥類、魚類、爬虫類そして昆虫類とその他の虫類として大きく五つの項目（グループ）に分類し、二言語間

の諺で素材として使用されている「動物」の数や使用頻度を中心に比較する。そして、素材の比較を通して両国の風土、両民族の生活様式と動物に対する意識などの特徴を考察する。

1. 両国の諺に使用されている動物素材

両国の諺に使用されている動物素材を（表1・表2）を対照してみるといくつかの特徴が見られる。その特徴を以下の五つのグループに分けて考察してみよう。

哺乳類		鳥類		魚類		爬虫類		昆虫類とその他の虫類 ^{むしるい}	
馬	20	鳥	13	魚	13	かえる 蛙	8	あり 蟻	10
猫	19	からす 烏	8	うなぎ 鰻	7	へび 蛇	5	ちゅう 虫	7
犬	17	つばめ 燕	6	いわし 鰯	5	かめ 亀	1	あぶ 蚊	4
牛	11	がん 雁	5	たい 鯛	4	すっぽん 鱉	1	はち 蜂	3
ねずみ 鼠	9	たか 鷹	5	かに 蟹	4	とかけ 蜥蜴	1	くも 蜘蛛	3
とら 虎	6	すずめ 雀	4	こい 鯉	3			ケ ケ	2
しか 鹿	3	つる 鶴	4	かつお 鰹	3			はえ 蠅	1
猿	3	鶏	3	はまぐり 蛤	3			あぶ 虹	1
いたち 鼬	2	わし 鷲	3	あわび 鮑	2			うじ 蛆	1
しし 獅子	2	ほと 鳩	3	くじら 鯨	2			こがねむし 黄金虫	1
うさぎ 兎	2	ほととぎす 時鳥	2	えび 蝦	1			ちゅう 蝶	1
こうもり 蝙蝠	2	かも 鴨	2	なまず 鱈	1			どうろう 螞蟷	1
おおかみ 狼	1	う 鴉	1	めだか 目高	1			なめくじ 蛞蝓	1
たぬき 狸	1	うぐいす 鶯	1	ふく 河豚	1			ほたる 螢	1
きつね 狐	1	えんおう 鴛鴦	1	どじょう 泥鰌	1			せみ 蝉	1
豚	1	きし 雉	1	さば 鯖	1			いもむし 芋虫	1
いのこ 豕	1	こく 鶺鴒	1	しらうお 白魚	1				
		さぎ 鷺	1	さけ 鮭	1				
		くまたか 熊鷹	1	まくろ 鮪	1				
		アカショウビ ン	1	かれい 鱈	1				
		せきれい 鶺鴒	1	なまこ 海鼠	1				
合計	101		67		57		16		39

哺乳類		鳥類		魚類		爬虫類		昆虫類とその他の虫類 ^{むしるい}	
馬	93	鳥	23	魚	13	へび 蛇	18	はち 蜂	6
犬	88	鶏	19	いわし 鰯	1	かえる 蛙	2	はえ 蠅	5

るば 驢馬	59	おんどり 雄鳥	13	かつお 鰹	1		あり 蟻	4
羊	41	からす 烏	11				しらみ 虱	4
牛	36	かちょう 花鳥	8				うじ 蛆	3
らくだ 駱駝	27	すずめ 雀	6				蚊	1
やぎ 山羊	25	たか 鷹	5				のみ 蚤	1
おおかみ 狼	24	ナインガール	3				ぼった 飛蝗	1
猫	16	ひよこ 雛	2				むかて 百足	1
しし 獅子	15	はやぶさ 隼	2				さそり 蠍	1
ねずみ 鼠	11	やまうずら 山鶉	2					
きつね 狐	11	かも 鴨	2					
くま 熊	9	おし 鷺	2					
豚	7	こうのとり 鶴	2					
うさぎ 兎	6	ぶくろう 梟	1					
らば 驢馬	5	うずら 鶉	1					
すいぎゅう 水牛	5	つる 鶴	1					
猿	2	かささぎ 鶺鴒	1					
はりねずみ 針鼠	1	つばめ 燕	1					
象	1							
さい 犀	1							
合計	483		105		15	20		27

2. 哺乳類

(1) 両国の哺乳類の使われ方の特徴

両国の諺の中で表現素材として使用されている哺乳類動物がトルコ語に21種、日本語に17種あり、トルコ語の方が日本語より多少多い。トルコ語で使用されている哺乳類21種の動物素材の中で10種が日本語の諺には存在していない。(驢馬、羊、駱駝、山羊、熊、驢馬、水牛、針鼠、象、犀)(表3参照)それに対して、日本語で使用されている動物素材17種の内の6種が(虎、鹿、鼬、蝙蝠、狸、豕)トルコ語の諺の中には存在していない。両語で素材として使用されている哺乳類動物が合わせて27個あり、その中の11個が同じ、同類の動物である。(表3参照)

ここで最も顕著なことは、二言語間の諺で使用されている哺乳類動物素材数に殆ど違いがないにも関わらず、素材の使用回数の面から言えば、トルコ語の方が圧倒的に多いということである。トルコ語の諺で(2667例)21種の哺乳類動物の使用回数は483であるが、それに対して日本語の諺(2260例)では17種の哺乳類動物の使用回数は101に過ぎない。トルコ語の諺の中で表現素材として使用されている哺乳類動物の使用頻度は18.1%であり、日本語の場合は、4.4%である。

両国の諺で素材として使用されている哺乳類動物は、食肉や乳、毛、運搬、交通などの

為に飼育されている家畜及び、自然の中でそのまま生きている野生動物の二つに大きく分けられる。

表3 両国の諺の中で使用されている共通・相違の哺乳類

	共通		相違			
	トルコ語	日本語	トルコ語		日本語	
馬	93	20	驢馬 ^{るば}	59	虎 ^{とら}	6
犬	88	17	羊	41	鹿 ^{しか}	3
牛	36	11	駱駝 ^{らくだ}	27	鼬 ^{いたち}	2
狼	24	1	山羊 ^{やぎ}	25	蝙蝠 ^{こうもり}	2
猫	16	19	熊 ^{くま}	9	狸 ^{たぬき}	1
獅子	15	2	驃馬 ^{らば}	5	豕 ^{いのこ}	1
鼠 ^{ねずみ}	11	9	水牛	5		
狐 ^{きつね}	11	1	象	1		
豚	7	1	犀 ^{さい}	1		
兔 ^{うさぎ}	6	2	針鼠 ^{はりねずみ}	1		
猿	2	3				
合計	309	86		174		15

(2) 両国の諺で素材として使用されている家畜と野生の特徴

表4を見てみると、トルコ語の諺では家畜が「馬、犬、驢馬^{るば}、羊、牛、山羊^{やぎ}、駱駝^{らくだ}、鶏*、猫^{うさぎ}、兔^{らば}、驃馬^{らば}」(鶏を除いて401例)であり、野生動物としては「狼、獅子、鼠^{ねずみ}、豚*、狐^{きつね}、熊、猿、針鼠^{はりねずみ}、象、犀^{さい}」(82例)が挙げられる。

歴史上トルコ民族が、栄養や交通、運搬などのために利用してよく親しまれた家畜、そして、農牧に損害をもたらす野生動物にも馴染みがあったと言えるようである。

*鶏：哺乳類動物ではないが、卵や食肉のために飼育される家畜である。

*豚：現在では多くのトルコ人はイスラム教徒であるため、豚がトルコでは盛んに家畜として飼育されていない。

日本語の諺で素材として使用されている家畜と野生動物(表4)を見てみると、家畜として「馬、猫、犬、牛、豚」(68例)が挙げられ、野生では「鼠^{ねずみ}、虎^{とら}、鹿^{しか}、猿^{さる}、鼬^{いたち}、兔^{うさぎ}、狼^{おおかみ}、狸^{たぬき}、狐^{きつね}、豕^{いのこ}」(33例)が挙げられる。これも、両国の諺における哺乳類動物の使用で見られる大きな差の一つである。トルコ語の諺では、牧畜に関係する家畜の方が多く使用されているのに対して、日本語の場合は野生動物の方がよく用いられているようである。従って、日本では牧畜に関しては馴染みが薄かったと言えそうである。

表 4 両国の諺の中で使用されている家畜と野生動物

トルコ語				日本語			
家畜		野生動物		家畜		野生動物	
馬	9 3	狼	2 4	馬	2 0	ねずみ 鼠	9
犬	8 8	獅子	1 5	猫	1 9	とら 虎	6
らば 驢馬	5 9	ねずみ 鼠	1 1	犬	1 7	しか 鹿	3
羊	4 1	きつね 狐	1 1	牛	1 1	猿	3
牛	3 6	熊	9	豚	1	いたち 鼬	2
らくだ 駱駝	2 7	豚*	7			うさぎ 兎	2
山羊	2 5	猿	2			獅子	2
猫	1 6	はりねずみ 針鼠	1			こうもり 蝙蝠	2
うさぎ 兎	6	象	1			たぬき 狸	1
らば 驢馬	5	さい 犀	1			きつね 狐	1
水牛	5					いのこ 豕	1
鶏*	3 4					狼	1
合計	435		8 2		6 8		3 3

トルコ語の諺の中で表現素材として使用されている哺乳類動物 (483 例) の中で家畜の使用回数は 401 例で、使用頻度は 83% である。全ての動物表現素材 (650 例) のにおいては 61.1% である。日本語の場合は、哺乳類動物表現素材 (101 例) の中で家畜の使用回数は 68 例で、使用頻度は 67.3% であり、全ての動物表現素材 (280 例) の中で使用頻度は 24.2% である。トルコ語の諺の中で表現素材として使用されている野生動物は、83 例、日本語の場合は 33 例である。

また、トルコで家畜として飼育される動物が、日本では飼育されない場合もあれば、同様に日本で家畜として飼育される動物がトルコでは飼育されていなかった (いない) と言えるようである。例えば、^{うさぎ} 兎 はトルコ人によって食肉のために家畜として飼育されていたが、日本の場合兎は家畜として飼育されたのではなく、狩猟されていたようである。また、豚はイスラム教によって禁じられているので、トルコでは飼育されなかったようである。

今まで調べた資料の中で使用頻度が最も高い動物は両国においては馬である。トルコ語の諺における「馬」(93 例) の使用頻度は、全ての諺の中 3.4%、哺乳類動物の中

19.25%、全動物表現素材の中で14.3%であり、日本語の場合は「馬」(20例)の使用頻度は全ての諺の中では0.8%、哺乳類動物の中での19.6%で、全動物素材の中では7.1%である。

また、トルコ語では「針鼠^{はりねずみ}、象、犀^{さい}」、日本語では、「狼^{たぬき}、狸^{きつね}、狐、豚、豕^{いのこ}」が表現素材として一回しか使用されていない。

長い歴史の中でトルコ民族にとって最も身近な動物、というか存在は「馬」であったと言ってもいい。何故ならば、好戦的な遊牧民族であったトルコ人は戦争や移動そして農業で「馬」をよく利用したからである。かつて、トルコ人にとって最も大切な三つの概念は1「馬」(馬や友)、2「妻」(妻や家族)、3「武器」であった。日本語の諺の中で表現素材として使用されている「馬」を見てみると、トルコ民族のような意識はないが、諺の中での使用回数を見ると、やはり日本人にとっても「馬」馴染みのある、よく親しまれた存在だと分かる。

例：

「馬は英雄の友」、「馬の腹、英雄の鼻」、「馬と妻に運あり」(トルコ語)

「馬に乗る者は落ち、道行く者は倒れる」(日本語)

(3) 雄・雌・子を区別して使用される動物素材

表5

	トルコ語	日本語
羊 41		
雌羊	28	_____
雄羊	3	_____
子羊	10	_____
牛 36		1 1
雄牛	22	_____
雌牛	10	_____
子牛	3	_____
雄子牛	1	_____
山羊 25	19	
山羊	6	_____
子山羊		
馬 20	93	
馬	_____	19
駒		1
鶏 34		3

めんどり 雌鳥	19	_____
おんどり 雄鳥	13	_____
ひよこ 雛	2	_____

日本語の諺で表現素材として使用されている動物の性、親か子が、また、同類の動物であるかどうかということは、「馬 駒」以外に指摘されていないが、トルコ語の場合は性、親子また、同類に属している動物は表現素材としてよく使い分けられている「牛(雌牛) 雄牛、雄子牛、羊(雌羊) 子羊、雄羊、山羊、子山羊」また、鳥類動物の中でも「鶏」の素材は、「^{おんどり}雄鳥、^{めんどり}雌鳥、^{ひよこ}雛」としてはっきり使い分けられている。

トルコ語のこのような諺の中で一般的に、子の動物の表現素材は「むなしさや純真さ」、雄の動物の表現素材は「力」、雌の動物の表現素材は「むなしさ」を現しているようである。現在、両国でもまだまだ残っているが、日本より遥かに強い男女差別の意識が、トルコでは諺の中で表現素材として使用されている様々な動物の素材に浸透する程、大昔に溯っているとと言えるようである。

例：

「豚は子羊を生まぬ」(豚は性格の悪い人、子羊は無邪気な人を現している。)

「牧人のいない雌羊は狼にとられる」(指導者のいない人々はいつもひどい目に会うということのたとえ。また、雌羊は女の人で狼は悪質な男のたとえ)

「雄羊は雌羊より賢くなるべき」(雄羊は指導者のことで、雌羊は指導される人の喩)

両国の諺の中では、現在は動物園以外におらず、また両国に存在していたかどうかは不確実な哺乳類動物も表現素材として使用されている。

トルコ語の「^{しし}獅子、^{いんげん}猿、^{ぞう}象、^{けい}犀」の動物はトルコでは動物園だけで見られる。日本語の「^こ虎、^{しし}獅子」これらの動物は日本でも自然の中には存在していないだろう。

両国の自然の中で本当に生きていたかは不明確だが、両国の諺の中で表現素材として使用されている「獅子」は共通して、殆ど「力」や「男らしさ」を現しているのである。

例：

「獅子の子落し」(日本語)

「雄獅子は獅子で、雌獅子は獅子ではないの？」(トルコ語)

トルコ語では表現素材として使用されている哺乳類動物は21種、日本語の場合は17種ある。両国の諺の中で表現素材として用いられている哺乳類動物の種類はそれ程違わない。しかし、使用回数そして、使用頻度には大きな差がある。哺乳類動物のトルコ語での使用回数は483で、使用頻度は18.1%であり、日本語の場合は、使用回数は101

で、使用頻度は（4.4%）である。

両国の諺における哺乳類動物の使用で、数量的にトルコ語の方が圧倒的に多いが、両民族が生きていた地理的な範囲の面から考えてみれば、日本語の諺で表現素材として使用されている哺乳類動物は少ないとは言えない。

しかし、やはり家畜をはじめ、哺乳類にトルコでは日本より馴染みがあったと言えるようである。

3. 鳥類

次に鳥類の使われ方について調べてみると、表6のようになる。

表6 両国の諺の中で使用されている共通・相違の鳥類

	共通		相違			
	日本語	トルコ語	日本語		トルコ語	
鳥	13	23	雁 <small>がん</small>	5	花鳥 <small>かちょう</small>	8
からす 鳥	8	11	はと 鳩	3	ナインガール	3
つばめ 燕	6	1	とんび 鳶	3	はやぶさ 隼	2
たか 鷹	5	5	ほととぎす 時鳥	2	やまうずら 山鶉	2
すずめ 雀	4	6	う 鶉	1	わし 鷲	2
つる 鶴	4	1	うぐいす 鶯	1	鶻	2
にわとり 鶏	3	34	えんおう 鶯鶯	1	うずら 鶉	1
かも 鴨	2	2	きじ 雉	1	こうのとり 鶴	1
			こく 鶻	1	ふくろう 梟	1
			くまたか 熊鷹	1		
			アキョビ ン	1		
			せきれい 鶻鶻	1		
			さき 鶯	1		
合計	45	83		2 2		22

両国の諺の中で表現素材として使用されている鳥類動物はトルコ語に16種、日本語に20種あり、日本語の方が多少多い。また、両国の諺の中では「鳥」も表現素材として使用されている。それに、トルコ語だけで、家畜として使用されている鶏が「雄、雌そして、^{ひよこ}雛（子）」としてはっきり使い分けられている。（表7参照）

全ての諺の中で表現素材として使用されている鳥類動物（鳥を含めて）のトルコ語での使用回数は2667例の中で105例（3.9%）で、日本語の場合は、2260例の中で67例（2.9%）だけである。全ての動物表現素材の中で鳥類動物の使用頻度はトルコ語で

650例の中16.1%で、日本では280例の中で23.9%である。

合計で28種の鳥類動物表現素材の中で8種の鳥類「鳥、鶏^{からす}、雀、鷹^{たか}、鴨^{かも}、鶴^{つる}、燕^{つばめ}」が共通しており、トルコ語の中で表現素材として使用されている「花鳥、ナイチンゲール、隼^{はやぶさ}、山鶉^{やまうずら}、鶴^{こうのとり}、梟^{ふくろう}、鶺鴒^{かささぎ}、鷺^{わし}」は日本語の諺の中には存在していない。同様に、日本語の諺の中で表現素材として使用されている「雁^{がん}、鳩^{はと}、時鳥^{ほととぎす}、鶉^う、鶯^{うぐいす}、鶯鶯^{えんおう}、雉^{きし}、鶻^{こく}、熊鷹^{くまたか}、アキオビ^{アキオビ}、鶺鴒^{せきれい}、鶯^{さぎ}」はトルコ語の諺の中には存在していない。

表7 鶏（トルコ語のみ）

鶏	
めんどり 雌鳥	19
おんどり 雄鳥	13
ひよこ 雛	2
合計	34

トルコ語の諺の中で表現素材として最もよく使用されている鳥類動物は、卵や食肉のために飼育されている「鶏」(34例)で、日本語の諺の中にはそれ程(3例しか)存在していない。日本語の諺の中で表現素材として最もよく使用されている鳥類動物は「鳥」(13例)であり、その次は「鳥^{からす}」(8例)である。トルコ語でも、最もよく使われている「鶏」に次いで「鳥^{からす}」が、諺の中で二番目によく使われている。

トルコでは「鳥^{からす}」に対して汚い、価値のないものというイメージがあり、日本では一般的に「不吉」の象徴だと考えられているようである。鳥^{からす}は現在でも、両国の街内や、田舎でよく目にする、ゴミや畑などを荒らす「鳥^{からす}」は両国の人々にとって身近な存在であるが、それ程親しまれているとは言えない。また、日本では鳥類動物は気候現象を予想する上でよく使用されているようで、諺の中でもよく見られる。

例：

「雄鳥^{おんどり}がどんなに鳴いても、雛^{ひよこ}は雌鳥^{めんどり}の鳴き声を聞く」(トルコ語)(父、母、子の関係)

「鳥^{からす}が鳴くと不吉」(日本語)

「鳥^{からす}は自分の子を見て「私の白くて綺麗な子」と言ったそうだ」(トルコ語)(親子)

「雀が水浴びすれば晴れ」、「燕^{つばめ}が低く飛べば雨が近い」(日本語)

表6を見ると、日本語の諺で使用されている鳥類はトルコ語より少し多く、日本人の鳥類動物との関係はトルコ人より少し深いと言ってもいいだろう。トルコで家の屋上で鳩を飼っていた筆者は、鳥類には非常に興味があり、両国の空や様々な鳥類をいつも観察しており、日本の空を飛んでいる鳥類はトルコより豊富だと思う。それは、両国の諺の中で使

用されている鳥類動物を反映しているようである。

4. 魚類

魚類の使われ方も、両国の特徴を興味深く見せてくれる。

表 8 両国の諺の中で使用されている共通・相違の魚類

	共通素材		相違素材			
	日本語	トルコ語	日本語	トルコ語		
魚	13	13	うなぎ 鰻	7		
いわし 鰯	5	1	たい 鯛	4		
かつお 鰹	3	1	かに 蟹	4		
			こい 鯉	3		
			はまぐり 蛤	3		
			あわび 鮑	2		
			くじら 鯨	2		
			えび 海老	1		
			なまず 鱈	1		
			めだか 目高	1		
			ぶく 河豚	1		
			どじょう 泥鰌	1		
			さば 鯖	1		
			しらうお 白魚	1		
			さけ 鮭	1		
			まぐろ 鮪	1		
			かれい 魚	1		
			なまこ 海鼠	1		
合計	21	15		36		0

両国の諺の中で表現素材として使用されている魚類は、日本語の方がトルコ語より圧倒的に多い。トルコ語の諺の中で「^{いわし}鰯」と「^{かつお}鰹」そして一般的に「魚」だけが表現素材として使用されている。それに対して、日本語の場合は20種の魚類そして、一般的に「魚」が表現素材として使用されている。

両国で全ての諺の中で表現素材として使用されている魚類の使用回数は日本語で2260例の中57例(2.5%)で、トルコ語の場合は2667例の中15例(0.5%)である。全ての動物表現素材の中で魚類の使用頻度は日本語で281例中20.8%であり、トルコ語の場合は2.3%である。

トルコ語の諺の中で表現素材として使用されている「魚、^{いわし}鰯、^{かつお}鰹」は、日本語の諺

中でも表現素材として使用されている。日本語の諺で使用されている魚類表現素材の多さを見ると、日本では狩猟や漁業が盛んに行われ、魚やその種類に非常に馴染みがあると言えるようである。日本の食文化（食卓）には欠かすことのできない魚であるが、トルコでは日本程馴染みがないようである。

日本は島国であり、その上河川や湖が多いので、魚が日本人に親しまれ、諺の中に多く浸透しているということは当然であるが、トルコは三方が資源に豊富な海に囲まれた半島であるのに関わらず、魚がそれ程親しまれていないということはとても興味深い。なお、ここでは、^{くじら}鯨、^{かに}蟹、^{はまぐり}蛤、^{あわび}鮑、^{えび}蝦は魚類の中に入れて考察した。

5. ^{はちゅうるい}爬虫類

次に爬虫類の使われ方についても見てみよう。

表9 両国の諺の中で使用されている共通・相違の爬虫類

	日本語	トルコ語
蛇	5	18
蛙	8	2
^{かめ} 亀	1	
^{すっぽん} 鱉	1	
^{とかげ} 蜥蜴	1	
合計	16	20

トルコ語の諺の中で表現素材として使用されている爬虫類動物はただ2種（蛇、蛙）のみであり、使用回数20例に過ぎない。トルコ語で使用されている爬虫類20例の使用頻度は、2667例の中で0.7%であり、動物が表現素材として使用されている650例の中での使用頻度は3%である。日本語の場合は、諺の中で使用されている爬虫類動物は5種（蛙、蛇、^{かめ}亀、^{すっぽん}鱉、^{とかげ}蜥蜴）あり、使用回数は16例に過ぎない。使用頻度は全ての諺の中で（2260例）0.7%、動物が表現素材として使用されている280例の中では5.7%である。

両国の諺の中で表現素材として使用されている爬虫類動物の中では、蛇と蛙が共通し、日本語の諺の中で使用されている^{かめ}亀、^{すっぽん}鱉、^{とかげ}蜥蜴はトルコ語の諺の中に存在していない。また、二言語間で共通している蛇と蛙の使用回数は、蛇がトルコ語で18例そして、蛙が2例であり、日本語の場合蛙は8例、蛇は5例である。使用回数を見て、両国でもこれらの動物に多少馴染みがあると言えるようである。

トルコ語の諺で蛇は裏切る、信用できない人のことを比喩的に現すためによく使われている。日本語の場合はトルコ語のような決まったイメージは見当たらない。

例：

「柔らかいと言って蛇に手をつけるな」、「蛇の頭は若いうちに押しつぶされる」（トルコ語）

「蛇は一寸にして人を呑む」（日本語）

6. 昆虫類^{こんちゅうるい}とその他の虫類^{むしるい}

昆虫類とその他の虫類について調べてみると、やはりいくつかの特徴が見られる。

表 10 両国の諺の中で使用されている共通・相違昆虫類とその他の虫類

	共通		相違			
	日本語	トルコ語	日本語	トルコ語	トルコ語	トルコ語
あり 蟻	10	4	虫	7	しらみ 虱	4
蚊	4	1	くも 蜘蛛	3	のみ 蚤	1
はち 蜂	3	6	ケラ	2	ばった 飛蝗	1
はえ 蠅	1	5	なめくじ 蛞蝓	1	むかで 百足	1
うじ 蛆	1	3	あぶ 虻	1	さそり 蠍	1
			ちょう 蝶	1		
			どうろう 螞蟷	1		
			ほたる 螢	1		
			せみ 蝉	1		
			いもむし 芋虫	1		
			こがねむし 黄金虫	1		
合計	19	19		20		8

昆虫類とその他の虫類動物はトルコ語で10種（^{はち}蜂、^{はえ}蠅、^{あり}蟻、^{しらみ}虱、^{うじ}蛆、^{ばった}飛蝗、^{むかで}百足、^{さそり}蠍）日本語では虫を含めて16種が（^{あり}蟻、^蚊蚊、^{くも}蜘蛛、^{ケラ}ケラ、^{はち}蜂、^{あぶ}虻、^{はえ}蠅、^{うじ}蛆、^{ちょう}蝶、^{どうろう}螞蟷、^{ほたる}螢、^{いもむし}芋虫、^{こがねむし}黄金虫、^{せみ}蝉、^{なめくじ}蛞蝓）諺の中で表現素材として使用されている。トルコ語では2667例の中、昆虫類動物表現素材の使用回数は27例、使用頻度は1%であり、動物が表現素材として使用されている650例の中での使用頻度は4.1%である。日本語の場合は、2260例の中での使用回数は39例、使用頻度は1.7%であり、動物が使用されている280例の中での使用頻度は13.9%である。日本語の諺の中で最もよく使われている昆虫類は蟻（10例）であり、殆ど気候現象や迷信を現すために使用されているようである。

例：

「蟻が穴を防ぐと雨になる」、「蟻が移動すれば大洪水」、「蟻に行列は雨のしるし」、「蟻

の行列をまたぐとよくないことが起こる。」（日本語）

両国の諺の中で共通している蟻と蜂は、トルコ語で殆ど、非常によく働く人のこと、つまり勤勉さを現す表現素材だが、日本語の諺の中にはそういうイメージはない。

「蟻から教訓を得よ！夏から冬を向かう」、「蜂のような亭主いれば、山ぐらいの場所あるう」（山ぐらいの場所とは、金持ちであることや、土をいっぱい持つこと）（トルコ語）

虫類は、日本語の諺では一般的に、気候現象や農業に損害をもたらす小さくて嫌なものを現していると言えようである。トルコ語の場合も殆ど小さいのに、いつも問題となっている物事を現すためによく使用されているようである。日本語の諺の中で表現素材として使用されている虫類はトルコ語より多いということから、日本人の虫やその種類との接触はトルコ人より多くて、影響を受けてきたと言ってもいいだろう。

例：

「夕蟬^{ゆうぜんみ}は天気」、「蜘蛛^{くも}の巣が光って見えたら晴れ」、「蚊柱が立てば雨」（日本語）
 「蠅は小さいが、吐き気を催させる」（トルコ語）

7. 全体的な特徴

表 1 1. 両国の諺の中で使用されている動物表現素材の使用回数と使用頻度

	トルコ語 2 6 6 7 個	%	日本語 2 2 6 0 個	%
哺乳類	483	18.1	101	4.4
鳥類	105	3.9	67	2.9
魚類	15	0.5	57	2.5
昆虫類	27	1.0	39	1.7
爬虫類	20	0.7	16	0.7
合計	650 個	24.3	280 個	12.2
両国の諺の中で使用されている全ての動物表現素材の使用頻度				
哺乳類	483	74.3	101	36.0
鳥類	105	16.1	67	23.9
魚類	15	2.3	57	20.3
^{こんちゅうるい} 昆虫類	27	4.1	39	13.9
^{はちゅうるい} 爬虫類	20	3.0	16	5.7

以上、動物表現素材の使用回数や使用頻度を中心に比較を行ってみた。トルコ語の諺

の中で動物素材は24.3%用いられており、特に、家畜が(16.1%)多く使用されているのに対して、日本語では特に、野生動物や鳥類、虫類そして魚類動物がよく表現素材として使用されていることが分かった。トルコ民族は牧畜そして、農業、日本民族は農業や狩猟、漁業を盛んに行ってきたようである。だからこそ、動物を利用する方法が異なり、両民族の生活様式には様々な相違があり、動物に対する意識も違っているようである。

一般的に諺の中での表現素材としての使用回数の多さから、トルコ人の動物との関係は日本人より密接的で、日常生活に深く浸透し、親しまれてきたようである。

. おわりに

以上、日本語とトルコ語の諺の中で使用されている動物を表す素材(単語)を中心に、考察した。両国の諺の中では動物に関してどのような素材が使用されているかを回数そして、使用頻度を対照しながら考察し、また、それが何を意味しているかを考えてみた。

素材の使用回数そして、使用頻度からみると、トルコ語の諺の中には、「馬、牛、羊、驢馬、鶏、山羊」などのような家畜に関する語彙が豊富なことが分かり、それを通して、農耕・牧畜がトルコ人の生活様式の基盤となっていたと言えるようである。また、日本語の諺の中での哺乳類、鳥類、魚類などの素材の使用回数をみると、狩猟や漁業が盛んに行われていたと言える。

動物に関する素材は両国の諺でも直接そして、比喩的に使用され、また日本語では根拠のない様々な迷信を現すのにもよく使用されているようである。今回の研究レポートでは両国の人々がそれぞれの動物を親しみ、それらの動物が生活様式の一端を担っていると述べたが、それぞれの「動物表現素材」は諺の中でどのように使用されているか、また、何を意味しているかを考察できなかったことは残念だと思う。

今回の研究レポートでは見逃したものもあると思うが、次回の研究ではこのレポートを見直し、両国の諺の中で表現素材として使用されている「動物」の数を再確認してから、「動物」に関するそれぞれの諺を一つずつ調べ、何を意味しているか、また、どういう風に使われているかを考察してみたいと思う。

参考文献

中川昇 『新ことわざ辞典』 ダイソー

『暮らしのことわざ早引き辞典』 学研 (SONY DIGITAL DATA VIEWER DD-IC7000)

OMER ASIM AKSOY (オメル・アスム・アクソイ) 『ATASOZLERI VE DEYIMLER SOZLUGU(諺・成句辞典)』 INKILAP 1988

浮田三郎 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究(4) 諺の中に使用されたる素材「動物」(1)」 『広島大学教育学部紀要 第2部』 第38号別刷1989

金子武雄 『日本の諺(3) 評論』 1993

竹内和夫 『トルコ語辞典』 大学書林 1987